



壬生町
第6次総合振興計画
前期基本計画



Ⅱ 基本構想

- Ⅱ-1 将来都市像
- Ⅱ-2 まちづくりの基本姿勢
- Ⅱ-3 施策の体系
- Ⅱ-4 将来人口フレーム
- Ⅱ-5 土地利用構想

Ⅱ-1

将来都市像

本町の地域特性や町民のニーズ、分野別課題を踏まえ、本町が進めてきた壬力UPを引き継ぎ、誰もが「住み続けたい。住んでよかった」、そして、「住んでみたい」と思える壬生町の実現を目指します。そこで、町全体の魅力を一体的に高めるまちづくりを進めるため、まちづくりの指針として将来都市像（10年後の目指すべきまちの姿）を「子育て・健康・壬力がキラリ 幸せ実感 住みよい“壬生町”」とします。



子育て・健康・壬力がキラリ 幸せ実感 住みよい“壬生町”

この将来都市像では、高い評価を受けている「健康を始めとした医療環境や子育て環境」の充実を図り、住んでいる方が「住みよい」と実感している姿を町の将来像として描いております。また、「住みよい“壬生町”」を実感し、幸せを感じている町民の姿を壬生町の住みやすさと捉え、町内外へPRし、壬生町への定住促進を図ります。

将来都市像を実現するために、7つのまちの姿を基本姿勢とします。

1

みんなでつくる 住み続けたいまち

- 住民主体の健全な行政経営を維持・推進するため、住民と行政が協力して地域活動に取り組みます。
- まちづくりに関する情報提供に努め、コミュニティの充実や住民参加・参画機会の拡充を図りながら、住民協働のまちづくりを進めます。



2

みんなが安全で安心して暮らせるまち

- 防犯・防災体制の充実など、災害に強く、安全に暮らせるまちづくりを進めます。
- 「交通事故がないまち」を目指し、住民の交通安全意識の啓発や危険箇所の改善などを推進します。



3

みんなで支え合い 健康で元気に暮らせるまち

- 住民一人ひとりが、住み慣れた地域社会の中で、いつまでも安心して自立した生活を営むことができるよう、保健・福祉・医療の連携による総合的なサービス体制を強化します。
- 地域、家庭及び行政がそれぞれの適正な役割と責任を担いながら、地域社会全体で協力し合い、支え合いながら、暖かく元気な地域福祉を目指します。



4

みんなが快適で 便利に暮らせるまち

- 総合的で計画的な社会基盤の整備・向上を図り、便利で快適な生活環境整備を目指します。
- 高齢化社会に対応した、人に優しく、誰もが利用しやすい地域公共交通を進めるとともに、便利で安全な道路環境を目指します。



5

みんなが自然に囲まれ 心豊かに暮らせるまち



- 豊かな自然環境の保全や、廃棄物の減量化・資源化を進め、環境への負荷の少ない低炭素社会を構築します。
- 憩いや余暇活動の拠点となる新たな自然空間の創出を図りながら、人と自然が触れあう快適なまちづくりを進めます。

6

みんなで学び・楽しみ 心が触れ合うまち



- 住民がそれぞれの生涯を通じて、学習や文化、芸術、スポーツ等さまざまな分野で、自らの個性を伸ばしながら、能力を発揮できる環境づくりを進めるとともに、個性と創造性が豊かな人づくりを推進します。
- 家庭や地域、学校が連携し、健やかな心と体を持った子どもが育つ環境を整えるとともに、郷土を愛し、夢と志を持ってたくましく生きる青少年の育成を目指します。

7

みんなが集まる にぎわいのあるまち



- 地域に根ざした既存の産業を活性化するとともに、新たな企業誘致を検討します。
- 活力ある農業の振興や、本町の魅力を生かした観光の振興を図りながら、それぞれが活気に満ちたまちづくりを進めます。
- 働く場の確保のため、民間と行政が協力しながら産業の振興を図ります。

「10年後の壬生町絵画」 優秀作品



南犬飼中3年1組
中川寧々
「Welcome to Mibu!」



南犬飼中3年2組
鈴木美音
「緑と笑顔のあふれる公園」



南犬飼中1年1組
塩崎萌乃
「みんなが健康に楽しく暮らせて…楽しい町であって欲しい」



壬生中2年2組
増淵創大
「元気な壬生町」



睦小3年2組
佐藤翔夢
「明るい壬生町」



稲葉小4年1組
高久七海
「いちごの町」



壬生東小2年
寺崎冬真
「みんなでつくる あんしんあ
んぜんな町」



安塚小4年2組
加藤佑惟
「住みよい壬生町」



壬生小4年1組
佐藤由望
「10年後の壬生町」



安塚小3年1組
五十嵐さくら
「みんな仲よし壬生町みんな」

基本構想の構成

将来都市像

子育て・健康・壬力がキラリ
幸せ実感 住みよい“壬生町”



まちづくりの基本姿勢

1
みんなで作る
住み続けたいまち

7
みんなが集まる
にぎわいのあるまち

2
みんなが安全で
安心して
暮らせるまち

3
みんなで支え合い
健康で元気に
暮らせるまち

4
みんなが快適で
便利に
暮らせるまち

5
みんなが自然に囲まれ
心豊かに
暮らせるまち

6
みんなで学び・
楽しみ
心が触れ合うまち

Ⅱ-3

施策の体系

基本姿勢

1 みんなでつくる
住み続けたいまち

2 みんなが安全で
安心して暮らせるまち

3 みんなで支え合い
健康で元気に暮らせるまち

4 みんなが快適で
便利に暮らせるまち

5 みんなが自然に囲まれ
心豊かに暮らせるまち

6 みんなで学び・楽しみ
心が触れ合うまち

7 みんなが集まる
にぎわいのあるまち

基本施策

- A 住民と進める協働のまちづくり
- B すべての人の人権が尊重されるまちづくり
- C 知りたい情報と親切なサービスがあるまちづくり
- D 健全な行政経営のまちづくり

- A 災害に強いまちづくり
- B 犯罪のないまちづくり
- C 交通事故のないまちづくり
- D 消費者保護のまちづくり

- A みんなが健康に暮らせるまちづくり
- B ともに支え合い暮らせるまちづくり
- C 子育てしやすいまちづくり

- A 地域特性を活かしたまちづくり
- B 円滑で利便性の高い交通ネットワークのまちづくり
- C 「おいしい壬生の水」を安定供給するまちづくり
- D 生活排水と雨水の適正処理で快適なまちづくり
- E 快適で多様な住環境のまちづくり

- A 自然環境を大切にうるおいのあるまちづくり
- B 資源を大切にすまちづくり
- C 快適で衛生的に暮らせるまちづくり

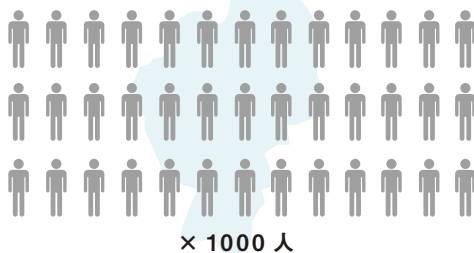
- A 学びあい、文化が薫るまちづくり
- B 誇れる歴史と伝統を受け継ぐまちづくり
- C 未来を担う子どもたちが健やかに育つまちづくり
- D 明るく元気な生涯スポーツのまちづくり
- E 家庭と地域の絆を育むまちづくり
- F 国際性を高め交流活動が盛んなまちづくり

- A 特色ある商業のまちづくり
- B 活力ある工業のまちづくり
- C 競争力ある農業のまちづくり
- D みんなが集まり賑わう交流のまちづくり
- E みんなが働きやすいまちづくり

Ⅱ-4

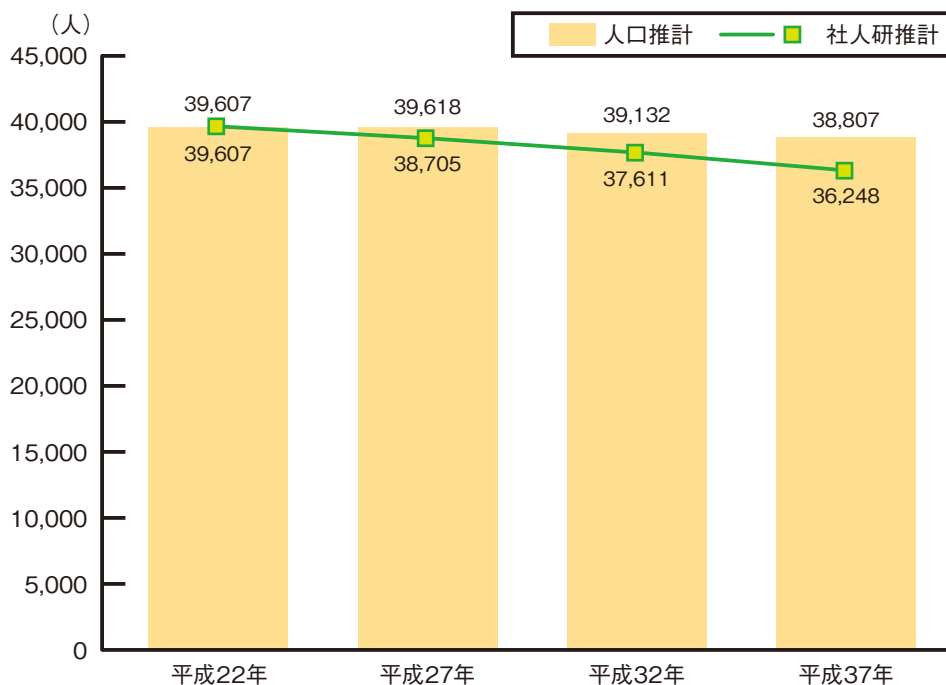
将来人口フレーム

平成 37 年の将来人口を
38,807 人に設定します。



平成 37 年の将来人口を 38,807 人に設定します。

平成 27 年度に策定しました「壬生町人口ビジョン」の平成 37 年の目標人口を本計画の設定人口とします。



(注) 社人研(国立社会保障・人口問題研究所)の推計は、平成22年までの国勢調査から算出しています。

1 土地利用の基本的な考え方

土地利用の基本的な考え方として以下の3点を踏まえた、土地利用を進めます。

① 自然と都市が調和した緑園都市の形成

- 適度な広がりでも利便性が高い都市づくり
- 緑園都市みぶを象徴する「緑の砦」における緑空間の維持・保全

② 新たな時代における機能の再編・強化

- 宇都宮市や栃木市等、周辺市町との機能連携
- 都市機能の適正配置と都市間ネットワーク
- 交通、情報、公共サービス機能の整備充実

③ 地域特性を活かした魅力あるまちづくりの推進

- 美しく暮らし続けたい都市空間の創出
- 美しく暮らしやすい田園空間の維持・創出

2 土地利用の構成

本町の土地利用は、大きく4つの骨格-「都市エリア」、「自然と調和した生産・交流ゾーン」、「都市間及び地域間の連携・交流の軸」、「交流のトライアングルエリア(広域的交流拠点)」-を構成します。

① 都市エリア

都市エリアとして、壬生駅を中心とする「緑と文化の都市ゾーン」、国谷、おもちゃのまち及び安塚の3駅間を中心とする「緑と健康の都市ゾーン」、また、この2つのゾーンを結ぶ「緑のブリッジ」を設けます。さらに、都市ゾーンの既成市街地周辺で幹線道路沿道地域のうち、都市的土地利用に係る需要が多い、調整・誘導の必要性・優先性が高いと考えられる地域を「土地利用調整地区」として位置づけます。

緑と文化の都市ゾーン

本町の古い歴史と伝統を象徴する地域です。

商店街等の中心市街地の活性化を図るとともに、歴史と文化を活かした景観形成等により、風格と歴史の厚みを感じられる地域づくりを進めます。

緑と健康の都市ゾーン

獨協医科大学、おもちゃ団地等、未来の壬生町を象徴する地域です。おもちゃ団地の産業機能の再編や市街地内のバリアフリー※化等を進め、新たなまちづくりを担う、活力を生み出す地域づくりを進めます。

緑のブリッジ

「緑と文化の都市ゾーン」と「緑と健康の都市ゾーン」を結ぶ位置にあり、総合運動場やゴルフ場等の運動施設と、保健福祉センターや2基の国指定古墳等の歴史文化施設が樹林と調和した地域です。今後も、緑地の保全・活用等、自然との共生を考えた土地利用を図ります。

土地利用調整地区

市街化調整区域でありながら、既成市街地隣接・近接や幹線道路沿いであり、町の活性化に寄与する潜在的な可能性を有する地区を民間活力等によって中長期的に計画していきます。

※バリアフリー…障がいのある人が生活の中で障壁（バリア）となっているものを取りのぞくこと。

② 自然と調和した生産・交流ゾーン

自然と調和した生産・交流ゾーンの中核を形成する区域として「緑の砦」を設けます。「緑の砦」は「緑園都市」をイメージさせる緑豊かな田園景観を形成する中心的な地域として、引き続き緑の空間の維持・保全を図ります。

また、各地域にある転作田の活用や、地産地消への取り組みを通じた交流を促進するとともに、自然が豊かな住みよい農村環境の形成を図っていきます。

③ 都市間及び地域間の連携・交流の軸

主要道路や公共交通網を本町と周辺市町との連携や交流を図る軸、町内各地域間の連携・交流を図る軸として位置づけ、連携・交流の充実・強化を図っていきます。

広域連携・交流軸

産業、経済が連携・交流する軸として、主要地方道宇都宮栃木線及び東武鉄道宇都宮線を位置づけます。

産業や交流等の機能及びその拠点を軸沿いに配置し、本町の都市を形成する中心軸として、活性化及び都市機能の強化を図ります。

地域連携・交流軸

一般国道 352 号及び主要地方道羽生田上蒲生線を位置づけます。

都市地域と農村地域の多彩な交流を促進する軸です。豊かな自然や歴史、文化に触れ合い、親しみながら、魅力ある農村地域との心安らぐ交流が展開されます。

④ 交流のトライアングルエリア（広域的交流拠点）

北関東自動車道壬生インターチェンジを核として、「壬生総合公園」「獨協医科大学病院」及び「おもちゃ団地」の3拠点を結ぶエリアを本町の広域的交流拠点として位置づけ、多くの人、モノ、情報が多様に交流する高次な都市機能の充実・強化を図っていきます。

また、北関東自動車道壬生パーキングエリアに併設した「みぶハイウェイパーク道の駅みぶ」は、地域交流の拠点として、本町の魅力を町外又は県外へ発信します。

